

日本酒×里山トークライブ！

～府立丹後海と星の見える丘公園開園20周年記念事業を6月28日に開催～

■京都府では、きょうと生物多様性センターとともに、府立丹後海と星の見える丘公園の開園20周年を記念し、伊根の酒造と丹後の里山をテーマに、生物多様性と文化の繋がりを学べるトークライブを京都学・歴彩館で開催しますので、取材をお願いします。

■当日は、同公園においてライブ中継も実施します。

1 日 時

令和8年6月28日（日） 14時00分～16時30分

2 場 所

京都府立京都学・歴彩館 小ホール（京都市左京区下鴨半木町1-29）

中継会場：京都府立丹後海と星の見える丘公園 セミナーハウス（宮津市里波見）

3 内 容

(1) はじめに 14時00分～14時20分

「酒の歴史—生物多様性文化のひとつとして—」

講師：きょうと生物多様性センター センター長 湯本 貴和 ゆもと たかかず

(2) 講演 14時20分～14時50分

「—豊かな伊根の自然で譲す—微生物は楽しい！私の酒造り」

講師：向井酒造株式会社 社氏 向井 久仁子 むかい くにこ

(3) トークリレー&座談会 14時50分～16時30分

「里山で生きる—自然を生かす営みと流域のつながり—」

登壇者：【酒】向井酒造株式会社 社氏 向井 久仁子 むかい くにこ

【田】農家・蔵人 上野 広尚 うえの こうしょう

【和紙】いとをかし 大江 歩 おおえ あゆみ

【藤織り】藤織り工房のの 齊藤 麻弓 さいとう まゆみ

【田・狩猟】上世屋獣肉店 小山 愛生 こやま ひでき

【ガイド】宮津世屋エコツアーリズムガイドの会 安田 潤 やすだ めぐむ

座談会進行：きょうと生物多様性センター センター長 湯本 貴和 ゆもと たかかず

4 定員・申込

(1) 定員

京都府立京都学・歴彩館 100名

中継会場：京都府立丹後海と星の見える丘公園 50名

※いずれも事前申込・先着順。空きがあれば当日受付可。

(2) 申込（参加無料）

申込締切 令和8年6月24日（水）17時

申込方法 以下の申込フォームから申請

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScuEV4mhAoaL2okNdbc6f-VjByxIQyWAH-o9Zu6UPw_loxh4w/viewform

5 主 催

きょうと生物多様性センター、京都府、京都府立丹後海と星の見える丘公園

6 協 賛

一般社団法人三洋化成社会貢献財団

【参考】

●向井酒造株式会社 社氏 ^{むかい}向井 ^{くにこ}久仁子

創業263年を迎える伊根町の酒造で社氏を務める。京都府初の女社氏。伊根町で復刻栽培した古代米（紫黒米）を配合した赤い日本酒「伊根満開」は、令和元年に開催されたG20大阪サミットで振る舞われた。

●農家・蔵人 ^{うえの}上野 ^{こうしょう}広尚

伊根町野室地区にて無施肥・無農薬で自然栽培をしている。向井酒造株式会社の酒米を育て、冬には蔵人をしている。

●いとをかし ^{おおえ}大江 ^{あゆみ}歩

宮津市上世屋を拠点とする紙漉きの工房で、原料の木の栽培から製品づくりまで一貫して行われている。

●藤織り工房のの ^{さいとう}齊藤 ^{まゆみ}麻弓

宮津市上世屋を拠点とする藤織り工房。藤織りとは藤の蔓から採った繊維で作る織物で、日本各地で藤織りが途絶える中、制作技術が受け継がれ続けている上世屋で藤布を制作している。上世屋では藤布を「のの」と呼ぶ。

●上世屋獣肉店 ^{こやま}小山 ^{ひでき}愛生

上世屋で狩猟・ジビエ業や有機米づくりを行う。ブナ林とはじめとする豊かな上世屋の山々で獲られた獣たちを、精肉して販売している。

●宮津世屋エコツアーリズムガイドの会 ^{やすだ}安田 ^{めぐむ}潤

宮津世屋地域を中心に山歩き等のエコツアーを行い、海の村・山の里の暮らしを支えた智恵や、純林の豊かな恵みについて解説している。

【本報道発表に関するお問合せ】

総合政策環境部自然環境保全課 課長 杉本 TEL 075-414-4702



伊根で生きる。 上世屋で生きる。

伊根で花咲く
酒づくり
上世屋で生きる
4人のなりわい

京都府立丹後海と星の見える丘公園開園20周年記念事業

日本酒×里山トークライブ！

京都府北部に位置する伊根町、宮津市上世屋は、海と山に囲まれ、豊かな大地と清らかな水、寒暖差のある気候です。これらの自然を背景に、酒造りが営まれてきました。自然を背景に営まれる酒造りや酒米を育てる田、風雪に耐えながら生きる6名のなりわいに焦点をあて、自然とともに生きることについて考えます。

2026.6.28 [日] 14:00-16:30

申込フォーム



参加費 無料

会場 京都府立京都学・歴史館小ホール
中継会場 京都府立丹後海と星の見える丘公園セミナーハウス

定員 府立京都学・歴史館 100人 (先着)
府立丹後海と星の見える丘公園 50人

主催：きょうと生物多様性センター・
京都府立丹後海と星の見える丘公園・京都府

問合せ Tel. 075-354-5275 / 075-744-1107

日本酒×里山

伊根で生きる。上世屋で生きる。

(敬省略)

プログラム

14:00 はじめに

酒の歴史—生物文化多様性のひとつとして—
きょうと生物多様性センター センター長 湯本 貴和

14:20 講演

—豊かな伊根の自然で醸す—

「微生物は楽しい！私の酒造り」

向井酒造(株) 杜氏 向井 久仁子

14:50 トークレ
& 座談会

「里山で生きる」

—自然を活かす営みと流域のつながり—



京都府立京都学・歴彩館にて伊根・上世屋で生きる6名のお話をお伺いします。
日本酒や里山の暮らし・移住に興味のある方、彼らのなりわいをのぞいてみませんか。

登壇者

(敬省略)



向井酒造(株) 杜氏 向井 久仁子

京都府の丹後半島の伊根町で杜氏をしております、向井久仁子です。
弊社は、めずらしい、酒蔵から海に飛び込めるという世界一海に近い醸造所です。重要伝統的建造物群保存地区に指定された日本海の舟屋の町、伊根町で創業263年を迎えます。
毎年、学んだ成果を出せるよう、蔵のみんなで協力しお酒を造っております。昔ながらの味を守りながら、地元の食材に合った飲み飽きしない純米酒を根幹に、お客様に少しの工夫で日本酒の幅が広がる事を発見していただけたらと、日本酒の新酒開発にも力をいれております。



田/酒

農家・蔵人
上野 広尚



和紙

いとをかし
大江 歩



織物

藤織り工房のの
齊藤 麻弓



田/狩猟

上世屋獣肉店
小山 愛生



ガイド

宮津世屋エコツーリズム
ガイドの会
安田 潤

伊根町野室地区にて無施肥・無農薬の自然栽培をしています。虫も草も野菜も米もその他の生き物も人間も、共に育っていくような場所ができるように目指しています！

冬は向井酒造さんと蔵人として働き、自分の育てた酒米をお酒にするという貴重なお仕事をさせてもらっています！

趣味はレコード収集、野草を食べることなど、よろしくお願ひします！

2011年に上世屋へ移住。隣の谷で営まれていた「暮らしの中の紙漉き」と和紙の持つ柔軟性に惹かれ、翌2012年いとをかしの屋号で紙漉きを始めました。上世屋内で4度の引っ越しを経て、古民家で和紙のアトリエショップ兼住居を構築中。原料の木の栽培・採取から製品づくりまで、土や火、川や雪や風の力をかりて製作をしています。空気が光により近い暮らしに馴染む和紙づくりを目指しています。

藤織りは山に自生する藤の蔓の繊維で糸を作り布に織り上げる織物で、上世屋で永く続けられてきました。身近にあるものを上手に活用して暮らす、人間の精神と知恵が藤織りにはたくさん詰まっています。土地との関わりが深い織物である藤織りがこれからも上世屋で続いて欲しい、との思いで移住しました。昨冬、降り積もった雪と格闘しながら、この雪が藤織りを守ってきたのだ、と改めて感じたところです。前職は西陣織手織り職人。

上世屋で狩猟・ジビエ業や有機のお米作りをしています。小さな棚田での作業効率とはとにかく悪い。一方で、村人に受け継がれてきた稲木干しなど自然や風土をうまく生かした農のナリワイには魅力があると感じます。最近では子どもの影響でラグビー熱再燃。イベント日は、試合終わりからの直行予定です。

昭和47年、新任教諭として赴任した「上世屋分校」は全校生徒10人でした。4年後、生徒は2人。統合される「学び舎」の前で「農業基本法からですわ、村が立ち行かなくなったのは！」。世屋村、代々のリーダー家当主の方のそのことばが耳にこびりついています。上世屋は、地形、地質上、時代の求める大規模化・機械化のできない土地柄なのです。今、その上世屋高原に「カエルの館」を構え、自然共生サイトに関わっています。

問合せ

きょうと生物多様性センター
TEL:075-354-5275 / 075-744-1107

会場
中継会場

京都府立京都学・歴彩館小ホール
京都府立丹後海と星の見える丘公園セミナーハウス